## 蔵人

### 富士倉庫

## 山本 達也氏

フォークリフトに乗り、コーヒー豆の入出庫作業に従事する山本氏

## 物流はダイナミック

### 庫内整備「気持ちいい」

富士倉庫（坂口雅彦社長、横浜市中区）の本牧埠頭A突事業所（同区）の山本達也氏（25）は、食品原料をはじめとする輸入商品をメインに取り扱う同営業所で、入出庫作業に従事する若手エースだ。

2016年4月に入社し、17年1月から同事業所に配属。現在はセ氏15度の定温庫内で、主に輸入コーヒー豆の入出庫を担当する。

「横浜生まれの横浜育ち。いつも身近に見てきた港で働きたいと思い、横浜の倉庫会社を志望した」

複数の企業の会社説明会に足を運んだが、決め手となったのは、同社の雰囲気の良さ。

「他社は固い印象があったが、富士倉庫は若い採用担当者が多く、フランクな雰囲気。若手が活躍できる会社だと感じた」

入社後にフォークリフト技能資格を取得。最初は操作が思い通りにいかず、何度もやり直したが、持ち前の几帳面な性格で、庫内の効率的な整理技術を身に着けた。

「庫内に貨物がうまく収まった時は気持ちいい。倉庫業はこれまで未知の世界だったが、実際に働いてみると、物流はダイナミックで楽しい」

同社では14年前から、大卒を含め毎年2～5人の新卒者を採用し続けており、社員の平均年齢は35歳と若い。若手社員から成る「10年後の富士倉庫を考える会」を立ち上げるなど、若手の提案、アイデアを積極的に吸収しているのが特徴だ。

山本氏について、同事業所の橋本慎平所長（34）は「几帳面な性格に加えてセンスが良く、仕事はピカイチ。庫内の整理整頓技術は自分もかなわない。視察に訪れたどの顧客にも『庫内が奇麗』と褒められる。倉庫マンとしては一番うれしい。若手でも、やる気次第で主役になれる会社なので、もっと活躍して欲しい」と目を細める。（吉田英行）

## GLP流山Ⅱが竣工

### 業界初 共同荷受システム導入

各階に接続するダブルランプウェーを整備

日本GLP（帖佐義之社長、東京都港区）は12日、総延べ床面積32万平方㍍で3棟から成るGLP流山プロジェクト（PJ）の「GLP流山Ⅱ」（千葉県流山市）が竣工した、と発表した。業界初の取り組みとして、流山Ⅰ、Ⅱの両施設に入居する企業が共通して利用できる「共同荷受けシステム」を導入。共同荷受け室が接車予定時間や呼び出し時間をドライバーの携帯電話に通知することで、待機時間を明確にし、作業効率の向上を図る。

敷地面積4万2900平方㍍、免震構造の地上5階建てで、延べ床面積9万6400平方㍍。4階は重量物向けに低床バースとし、1平方㍍当たり2㌧の高床荷重エリアを整備した。各階に接続するダブルランプウェーを備えた。

都心から25㌔に位置し、常磐自動車道・流山インターチェンジ（IC）から1㌔で、東武野田線の初石駅からは1・8㌔の立地。現在、1棟賃貸を前提とした賃貸借契約の締結に向けて最終調整を行っているという。

庫内作業員向けのアメニティ充実にも注力。厨房付きカフェテリアやシャワー室、コインランドリー、宅配ロッカーなどを整備して働きやすい環境を考慮した。BCP（事業継続計画）対策としては、発電機を設置したほか、井水と排水の再利用によるトイレ洗浄水の利用などを可能とした。

帖佐社長は「GLP流山PJは今まで蓄積してきた知見とノウハウを結集したもの。また、共同荷受システムの運用によってトラック運転者の待機時間短縮を実現する」としている。（井内亨）

### 東日本高速北海道支社

## 移動式防護柵を導入

### 車線数切り替え渋滞緩和

### 高速道路で全国初

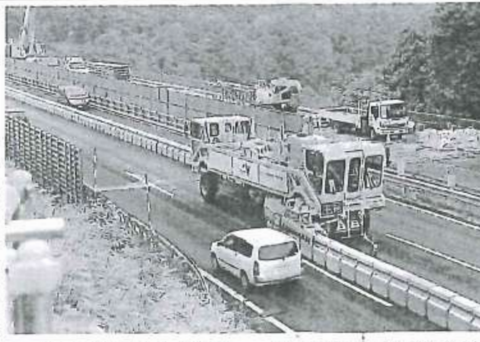
東日本高速道路北海道支社（大越良記支社長、札幌市厚別区）は、5月29日から7月12日まで、道央自動車道・恵庭インターチェンジ（IC）―北広島ICのうち、1・7㌔の工事区間で交通量の多い時間帯に合わせて中央分離帯を移動させ、車線数を切り替える「ロードジッパーシステム」という移動式防護柵を導入している。工事による渋滞を緩和させる狙いがあり、高速道路での運用は全国で初めてだ。（岡杏奈）

高速道路各社が実施している高速道路の大規模更新・修繕事業「高速道路リニューアルプロジェクト」の一環で、老朽化した島松川橋（全長306㍍、上り線）の床版取り替え工事を実施しており、これに伴う渋滞の緩和を図る。

車線数の切り替えは、工事に使われていない下り2車線と除雪用に広くしている路肩を使い、3車線を確保して中央の車線を交通量に合わせて変化させる。同区間では午前7時に上り線、午後6時に下り線が交通量のピークを迎えるため、月曜日から土曜日の正午に下り車線を、午前0時から上り車線をそれぞれ2車線切り替える。日曜日は切り替えを行わず、終日上り2車線下り1車線で運用する。

コンクリート製の防護柵は1個当たり680㌔で、長さ1㍍、高さは8・10㍍、幅46㌢。これを1・7㌔の規制区間に1700個使用。柵を切り替えるのはBTM（防護柵切り替え用車両）で、時速5～10㌔で走行しながらブロックを移動させ、車線を切り替える。

同支社によると、輪厚スマートIC―恵庭ICの上下線の平均交通量は1日当たり4万2000台（このうち大型車は5600台）。終日対面通行とした場合は、上下線ともに最大18㌔の渋滞が発生するが、ロードジッパーシステムで車線数を切り替えることで、渋滞が9割削減できる見込み。



BTMは、走行しながらブロックを移動させ、車線を切り替える

同支社の近藤光継構造技術課長は「導入によって平日の渋滞はゼロになる。新千歳空港へ向かう車がスムーズに走行できるよう車線運用したい。また、物珍しさからスピードを落とすドライバーもいるかも知れない。車間距離とスピードに注意して走行して欲しい」と話している。

## TPP11特恵関税活用支援

## 世界初無料サイト開始

### デロイトトーマツ

デロイトトーマツコンサルティング（宋修永社長、東京都千代田区）は4日、米国を除く11カ国による環太平洋経済連携協定（TPP11）の途上国支援の「特恵関税制度」の活用を支援する世界初の無料ウェブサービス「トレードコンパスTPP」の提供を開始した、と発表した。

無料ウェブサービスは、輸出物品に対する「特恵税率」やこれを利用する条件である原産地規則の検索から、特恵税率の適用有無の比較による「関税削減額の試算」、特恵税率が適用可能かを判定する「原産性判定」、「原産地証明書作成」までのプロセスについて、メリットの確認や手続きができる。（田中信也）

## 求人活動にウェブ活用

### 全国住むーぶ会 一般社団移行を視野

セイコー運輸（宮高豪社長、大阪市住之江区）の地域密着型引越輸送サービス「住むーぶ」を展開するパートナー企業でつくる「全国住むーぶ会」（同代表）は9日、大阪市で総会を開いた。深刻さを増す人手不足や働き方改革を踏まえ、2018年度の活動方針に、ウェブの積極的活用による求人活動や社員幸福度の向上などを盛り込んだ。

宮高代表が「物流の生産性向上が強く求められている。17年度は事業領域の更なる拡大や労働環境の改善をテーマに取り組んできた。共に生き残るため、しっかり考え、学んでもらいたい」とあいさつ＝写真。

18年度の活動方針として①地域課題を解決する事業領域と新たな収入を重視した事業領域の獲得②ウェブの積極的活用による求人活動③労働環境改善による社員幸福度向上に向けて具体的行動を議論④任意団体から一般社団法人への移行を視野に入れた組織づくり――を掲げた。

この後、福祉引っ越しの現状と解決事例などについて報告したほか、不用品買い取りサービス「買取住むーぶ」の事業化に関する提案も行った。

続いて、ケアマスターの上田稔社長が「プロのおそうじテクニック～ハウスクリーニング編」と題し講演した。（小菓史和）

### 共栄システム

## IT活用で省力化推進

### 働き方改革事例を紹介

運送事業者の事業効率化をサポート

共栄システム（前田繁孝社長、大阪市西区）は7日、ソフトウェアメーカーの大阪市でオービックビジネスコンサルタントと合同で働き方改革事例紹介セミナーを開いた。運送事業者の事業効率化とコンプライアンス（法令順守）をサポートした。

社会保険労務士の下村勝光氏が、物流事業における働き方改革の事例と関連法について解説。前田社長は働き方改革を支援するIT（情報技術）ツールを紹介し、IoT（モノのインターネット）の活用による省力化、人為的ミス削減の有用性を訴えた。

前田氏は「IT点呼を導入しても、出退勤をタイムカードでアナログ管理していては意味が無い。どの機材でどのような情報を取得できるのか、またそれをどう連携させれば良いのかを理解することが必要」と話した。（蓮尾輝）

### 自販連◆貨物車販売台数5月

## 2カ月連続2桁増

### 日野は3割以上伸ばす

日本自動車販売協会連合会（小関真一会長）が6日発表した5月の販売統計によると、全メーカーを含む貨物車販売台数は、前年同月に比べ11・7%増の3万3201台となり、2カ月連続で2桁の伸びを示した。大中型車も11・4%増の6421台だった。

大中型車をメーカー別にみると、日野自動車2601台（32・1%増）、いすゞ自動車1897台（6・8%減）、三菱ふそうトラック・バス（ハートムット・シック社長兼CEO＝最高経営責任者、川崎市幸区）1236台（15・4%増）、UDトラックス（村上吉弘社長、埼玉県上尾市）687台（0・3%減）の順だった。

小型車、普通車を含んだ販売台数は、いすゞ4800台（0・8%減）、日野4648台（31・6%増）、ふそう2944台（9・4%増）、UD697台（0・1%増）となった。（小瀬川厚）

### 安全発表会

## 優良職場を表彰

### JR貨物

日本貨物鉄道（JR貨物）は8日、「安全に関する自発的な取り組み」をテーマに、安全発表会を開催した。パネルディスカッションや取り組み事例の発表、安全優良職場表彰などを実施した。

安全優良職場表彰では、運転事故防止部門の最優秀賞に仙台貨物ターミナル駅、優秀賞に函館貨物駅、稲沢駅、南福井駅を選出。労働災害防止部門では、最優秀賞に富士駅、優秀賞には大分総合鉄道部が選ばれた。

JR貨物グループ安全表彰では、最優秀賞が仙台臨海鉄道、優秀賞は八戸臨海鉄道だった。ヒヤリ・ハット年間表彰は、帯広貨物駅と幡生機関区に贈られた。

安全の取り組み発表は、仙台貨物ターミナル駅が「安全最優先の職場風土づくり」、大分総合鉄道部は「日本一のおんせん県おおいた 味力も満載」、仙台臨海鉄道は「お客様の信用、信頼の回復を目指して」と題してそれぞれ取り組みを共有した。

安全統括管理者の大橋康利・鉄道ロジスティクス本部長は「自分が進んで安全を考えることの大切さを感じた。きちんと決められた正しい作業をすることは重要だが、ただ言われたからやっているのと、自分が納得して進んでやっているのとでは結果は違う。発表などでヒントをつかんだと思う。職場に戻ったら生かして欲しい」と締めくくった。（高橋朋宏）

### 運輸EXPOでゼミ

## 広報活動の重要性訴え

### ドラEVER社長

運送会社向け求人サイトを運営するドラEVER（岡野照彦社長、さいたま市大宮区）は8日、大阪市で開かれた運輸・交通システムEXPOで、人手確保対策でのプロモーション活動の重要性を訴えた。

岡野社長は「人手不足スパイラルから脱する運送会社プロモーション経営術」をテーマに講師を務めた。低賃金、重労働といった労働条件がイメージの悪化や離職を招き、それが労働条件の更なる悪化につながる――として、「人がいないスパイラル」からの脱却法を解説。

また、「近年の求職者は、折り込みチラシやラジオCMで興味を持った後、必ずインターネットで検索する。インターネット環境の整備必要」と述べた。（蓮尾輝）

### 新型日野レンジャー

## ラリー参戦

### 日野

日野自動車は4日、「シルクウェイラリー2018」にフレーム剛性強化とホイールベース延長などの改良を施した新型「日野レンジャー」で参戦する、と発表した。2、3の両日には、茨城県常陸大宮市の日野の茨城テストコースで新型車両の試験走行を行った。

シルクウェイラリー2018は、7月に中国―ロシアで行われる。日野は16年から出場し、今回が3回目となる。（小瀬川厚）

Little Master
HINO

茨城テストコースで試験走行を行う日野の新型レンジャー

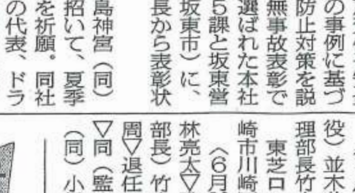
## 夏季繁忙期の安全誓う

### 大川運輸 無事故部署を表彰

大川運輸（大川光夫社長、茨城県鹿嶋市）は9日のグループ安全集会で、夏季繁忙期の安全を誓うとともに、無事故部署の表彰などを行った。

出席者全員で「事故・災害ゼロへのチャレンジを通じ、社会に貢献する」安全基本方針、品質・環境基本方針を唱和。

大川社長が「7月には全国安全週間がある。一人ひとりが安全作業を心掛け、事故防止に努めて欲しい。暑さで体調を崩しやすくなるので、健康管理にも注意しよう」と呼び掛けた。


安全集会
大川運輸株式会社

「安全作業を心掛けて欲しい」と大川社長

続いて、井戸賀任子安全室長が、最近の事例に基づいた交通事故防止対策を説明。グループ無事故表彰では、優秀賞に選ばれた本社営業所輸送第5課と坂東営業所（茨城県坂東市）に、大川博行副社長から表彰状が贈られた。

この後、鹿島神宮（同）の神職2人を招いて、夏季繁忙期の安全を祈願。同社幹部や各部署の代表、ドライバーら36人が玉串を奉てんした。更に、神職と大川副社長ら幹部、各部署のドライバーが本社営業所と周辺6カ所の駐車場を回り、トラックや施設をはらい清めた。（吉田英行）

## 会社人事

**丸運**

〈7月1日〉国際貨物営業部長を解く、国際貨物事業部管掌国際貨物事業部長杉山幸登▽貨物輸送事業部貨物輸送営業部営業担当部長を解く、芦田崇志▽貨物輸送事業部貨物輸送営業部営業担当部長（貨物輸送事業部貨物輸送営業部部長）望月利昭▽同貨物輸送営業部部長、浜辺哲司▽国際貨物事業部国際貨物営業部長（国際貨物事業部国際貨物営業部部長）高橋義直▽石油輸送事業部石油輸送営業部部長、福田聡志

**三八五流通**（青森県八戸市）

〈6月8日〉常務ロジスティクス事業本部副本部長中国事業部担当兼青森三八五流通専務兼北海道三八五流通取締役（顧問）最上恒美▽執行役員、引越部長小野寺庸▽顧問、佐藤潮▽顧問（相談役）佐藤富男▽相談役車両部担当（執行役員車両部長）田沢秀美▽参与運輸部担当（同運輸部長）沢口浩司▽退任（顧問兼教育担当）中島啓二

**秋田三八五流通**（秋田市）

〈6月8日〉専務（常務）幸沢正人

**三八五ロジステックス**（青森県八戸市）

〈6月8日〉取締役経理部長、大津亮

**トーリク**（神奈川県平塚市）

〈6月6日〉常務（取締役）並木恭輔▽取締役、管理部長竹内正之

**東芝ロジスティクス**（川崎市川崎区）

〈6月26日〉取締役、大林亮太▽監査役（経営監査部長）竹内裕二▽同、山田周▽退任（常務）田中慶二▽同（監査役）筒井勝▽同（同）小松久高

## 告知板

〈住所変更〉

トールエクスプレスジャパン（大阪市淀川区宮原3ノ5ノ36）＝大阪市中央区本町3ノ4ノ8。11日から。

（面担 セルバンテス・アロン）